



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

新元号に寄せて～これで時代が変わるわけではないが、
30年前の医療を考えると...

【当法人理事】

医療法人社団ユスタヴィア

宮川 高一 [医師]

この文章を書こうとした4月1日あたらしい元号が決定された。「令和」とはまた随分しゃれた元号と思ひ、個人的には気に入っている。Reiwaという音の良さがまず印象的だった。Reiは玲、鈴など「リング」のきらびやかな音を連想させる。万葉集巻五の梅花の序から「初春令月、気淑風和」からとられたという。令月は2月のことだが、素晴らしい月という意味もある。和書に求めたというのが素敵だし、めでたい名前であるが、Reiwaという音の響きがまったく古臭くない。ヒットと思う。この歌を大伴旅人が詠んだのは、天平2年(730年)ということなので、政争が絶えなかった奈良時代前期のことだ。平城京が都だったが、難波京が副都として機能していたし、奈良時代の74年間でも聖武天皇によって、恭仁京、紫香楽宮、難波宮と遷都している。どろどろとした権力闘争の大変な時代だったし、また大伴旅人自身も権力闘争から大宰府に左遷された。そして「梅を愛でながら正月13日の宴会で詠った」その年の11月に大納言で勇躍、帰京する。そういえば以前出張時に大宰府に行ったとき、かの資料館で梅の宴の人形ジオラマを見たことを思い出した。百濟からの帰化人がたくさん来朝し、先進的な文化が伝来、また興福寺八部衆(阿修羅像が有名だ)や十大弟子のような優れた脱乾漆の仏像を光明皇后のもとでの仏師集団が制作したのも同時代だ。先進文化を吸収しつつ、次第に日本らしい文化を築き上げた時代ともいえる。

歴史は脈々と続いていくし、元号で時代が変わることは本来ありえないが、日本人では「元号」で歴史を区切るのも、まあ仕方ないだろう。平成の30年間を振り返ると患者の権利は大きくなったし、医師・医療者一患者関係もより平等に、お互いを尊重するようになったと思う。糖尿病の医療でいえば、平成の初めには糖尿病薬はスルホニル尿素薬しかなかった。グルコバイ(初のαGI)の発売は、1993年(平成4年)を待たなければならない、インスリンはやっとヒトインスリンが普及してきたところで、ノボペン(前年の1988年(昭和63年))に上市されていたが、当時ペンニードルは27G12.5mmと今の34G4mmとはくらべものにならなかったし、持効型はなく、モナードやNPHなどの中間型や混合型を使用していた。ノボペン用製剤もペンフィルR150単位のみで、中間型、混合型はすべてバイアルでプラスチックパックなどの使い捨て注射器を使用していた。ノボペン300は1998年(平成10年)、ヒューマログの発売は2001年(平成13年)を待つことになる。スタチンのメバロチンはこの1989年(平成元年)に発売が開始される。ARBのニューロタンもまた1993年(平成4年)を待たなければならない。こうしてみると30年前に私はどんな糖尿病の医療を行っていたかを考えると、あまりに「原始的」でちょっと背筋が寒くなる。と同時に令和30年の医療は想像もできないほど進んでいるかもしれない。ITがどこまで応用されているか、新薬がどの程度できているかを考えると未来は明るい気がしてくる。その時までには日本国が財政破綻せず、国民皆保険がしっかり機能していることを祈念せざるをえない。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間において50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 心理的に困難な状態にある患者への支援について正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります。)

1. 悲嘆のプロセスのショック期では、現状や事実がどう認識されているかを明らかにする
2. 悲嘆のプロセスの悲嘆期は事実を受け入れられない時期である
3. 悲嘆のプロセスの悲嘆期には自殺念慮に注意が必要である
4. 悲嘆のプロセスは、正常な適応過程とは言えない
5. 2型糖尿病患者では、半数が「憂うつになった」と回答している



報告

第2回薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会

日時:平成30年11月21日(水)

場所:国分寺労政会館

[当法人理事] 杏林大学医学部付属病院 小林 庸子 [薬剤師]

平成30年11月21日、国分寺労政会館にて「第2回薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会～糖尿病発症予防のために～」が開催されました。参加者は18名、薬剤師の他に看護師、助産師、管理栄養士、理学療法士、そして一般企業の会社員の方も興味を持って参加してくださいました。

第一部は、杏林大学医学部(糖尿病・内分泌・代謝内科)医師の近藤琢磨先生より、「基礎から学ぶ、妊娠時の糖代謝異常②」をご講演いただきました。妊娠糖尿病の診断基準や治療方針など、とてもわかりやすいお話でした。最も衝撃的だった数値は、「妊娠糖尿病だった方は、将来糖尿病になる可能性が、そうでない方の7.43倍」でした。第二部は、多職種でのグループワークでした。第1回の当セミナーでご意見が出た、妊娠糖尿病だった方が、数年後に「これを見て、健康診断・受診に行くきっかけになりました」と言ってもらえるようなポスターを作成し、どこに貼付、配布したいかを検討しました。グループワークは短時間でしたが、伝えたいことがよくわかるポスターが各グループから発表されました。今回のグループワークで作成した物をもとにポスターを作成し、前号に封入いたしました。是非ご活用ください。



報告

第19回西東京EDMをめざす糖尿病薬物治療研究会

日時:平成30年12月15日(土)

場所:立川アレアホール

2018年12月15日(土)、立川アレアホールにて第19回西東京EDMをめざす糖尿病薬物治療研究会が開催され、糖尿病に携わる医師、コメディカル総勢56名の先生方にご出席頂きました。

今回は「SGLT-2阻害薬の新たな展開(EBMから実臨床まで)」をテーマに症例検討会では、症例1を医療法人社団 ユスタヴィア 理事長 宮川高一先生より、SGLT-2阻害薬の実臨床での使い方、症例2では東京医大 名誉教授 植木彬夫先生より10年間様々な薬物療法を行ったが、血糖管理、体重管理に苦慮している1例についてご発表頂きました。症例検討会では、ご参加された先生方に複数の治療選択肢からご回答頂き、そのご回答から会場全体で非常に熱い議論が交わされました。特別講演においては、金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 准教授 金崎啓造先生より「糖尿病腎症と向き合う～SGLT-2阻害薬の可能性～」についてご講演頂き、糖尿病腎症、具体的な症例提示、最新のCARMELLINA試験について非常にわかりやすくかつ詳細にお話頂きました。ご講演後の参加された先生方からのご質問も時間内で収まらないほど多くのご質問を頂き、非常に盛況に講演会を終了致しました。





日本糖尿病医療学会第2回関東地方会

平成31年2月10日(日)

崎陽軒本店

[当法人会員]

東京医科大学八王子医療センター

小林 高明 [医師]

『糖尿病医療学』という言葉に馴染みの少ない方もいらっしゃるかもしれませんが。日本糖尿病医療学会代表理事で奈良県立医科大学糖尿病学講座の石井均先生のお言葉を引用させていただきますと、「医療とは医学の成果(例えば科学としての薬物、技術としてのインスリンポンプ)を、病を持つひとに、医療者が手渡していく過程における人間的行為/関係であると定義される。そこには手渡すための技・術(アート)が存在する。それは個別的でありながら共通する真理/原則がありそれは学問の形をとれるので『糖尿病医療学』と呼びましょう。」と語られています。そしてそれを学ぶ機会のひとつが糖尿病医療学会です。そこには患者の気持ちを知り、自己治癒力を高める心理療法的アプローチや動機付け面接、コーチングの知識や技術、行動変容における健康心理学や行動科学など様々なテーマがありますが、学会での中心となるのは時間をかけた症例検討です。発表事例を小グループに分かれて検討し、他の症例とのつながりやそこから学んだもの(他の症例に応用できる共通点)を探求し共有することを目的としています。フロアでの各職種の方と交わす検討を通じ、どう感じて何を悩むかは個人により様々ですが、私自身は会終了後に形容しがたい精神的疲労感を自覚し帰路につくことが多いです。(それでも毎回参加しています。)

私は1昨年よりこの医療学会総会と地方会に演題発表を継続しており、今回は3回目の発表でした。この関東地方会は昨年に第1回が開催されましたが、昨年は総会と比較して初参加の方が多く、発表毎の小グループでの事例検討で戸惑っている方もいてサポートさせて頂く機会が複数回ありました。したがって今回はこの会が初めてでもより身近に感じられるように、発表テーマを事例検討ではなく、日常診療で馴染みの深い血糖自己測定の虚偽申告に選んで発表を行いました。発表では自験例2例に加え既報での文献的考察を交え10分程度のプレゼンテーションを行いました。あえてやや偏った側面からの発表により、フロアからの反論を含め『個々の信じているそれぞれ違う正しさ』について闊達な意見交換を期待しました。しかし実際は個人の主張が寄せられる展開となってしまう、全体での建設的な議論に至らずやや困惑しました。結果として出席者の来年への発表意欲向上に繋がられなかったと感じ、今後の発展に期待をしている個人として十分な貢献ができず残念な発表となりました。

糖尿病治療は直近20年で薬物治療を中心に格段の進歩をとげ、今はより多くの治療選択肢を提供する準備ができる一方で、糖尿病をもつ患者さんの内面を私達がいかに共感、理解し、その未来が少しでも明るくなるよう、どのように共に歩いていくかについては私達自身の準備が未だ不十分です。僥越ながら今後『糖尿病医療学』がさらに発展し、ともに悩みながら同じ目標に向かって歩いていける仲間の方達がより一層増えていくことを祈念しています。

研究会等のセミナー・イベント情報

主催事業 共催・後援事業 その他

第36回 武蔵野糖尿病研究会

申込必要

開催日：2019年6月1日(土) 14:50~16:30

場 所：国立市商業協同組合 さくらホール (JR中央線「国立駅」南口下車 徒歩3分)

参加費：500円 申 込：FAX：042-400-5952 (5/24締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 1.○ 悲嘆のプロセスのショック期は、事実を受け入れられない時期。
支援：現状や事実が、どう認識されているかを明らかにする。

2.× 3.○ 悲嘆期は、事実を認知し、強い悲しみにとられる時期。

支援：感情が表現できる場の提供。自殺念慮に注意。失われたものの個人にとっての意味、最も重大な喪失は何かを発見する。

4.× 悲嘆のプロセスは正常な適応過程であり、急がせることはできない。

5.× 1型糖尿病では、ほぼ半数が憂鬱になった、人生への影響を考えると不安になった、信じられなかった、家族のことを心配した、と答えている。



研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 主催事業

◆ 共催・後援事業

□ その他

◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第65回例会

申込不要

テーマ：『ステージ別！糖尿病腎症重症化予防のエッセンス』

開催日：2019年6月22日（土）15：15～18：50

場所：国分寺市立いずみホール（JR中央線「西国分寺駅」下車 徒歩2分）

参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円

参加費
無料

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

◆ 西東京CDEの会 第18回例会

申込必要

テーマ：『糖尿病の在宅支援を考える 多職種で考えよう！2025年とその先の在宅療養支援』

開催日：2019年6月29日（土）15：30～19：00

場所：府中市立中央文化センター ひばりホール（京王線「府中駅」下車 徒歩5分）

参加費：当法人会員 1,500円 / 一般 2,500円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（6/19締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

◆ 2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

第16回 西東京教育看護研修会

第4回 西東京臨床検査研修会

第16回 西東京病態栄養研修会

第4回 西東京運動療法研修会

第16回 西東京薬剤研修会

フリーコース

開催日：2019年7月28日（日）9：25～16：55（開場9：10）

場所：北里大学・薬学部 白金キャンパス

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/7～5/26] 6,000円 / 通常[5/27～7/12] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2019年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」より
お申し込みください。（7/12締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は<第1群>は、自分の職種である研修会に参加した場合のみ取得できます。
また<第1群>と<第2群>の単位はどちらか一方のみ認められます。

※フリーコースで取得できる単位は、西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位(10単位)のみとなります。

◆ 第7回 糖尿病災害対策セミナー

申込必要

テーマ：『災害時避難所で困らないために～今できること、その場でできること～』

開催日：2019年9月1日（日）14：20～16：00

場所：国分寺市立いずみホール（JR中央線「西国分寺駅」下車 徒歩2分）

申込：当法人ホームページのセミナー情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（8/22締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

参加費
無料

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局

〒185-0012

国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802

TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478

https://www.cad-net.jp/

Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



年度もあらたまり、職場で新しい同僚を迎えた方々もいらっしゃるでしょう。また新しい職場で緊張の中にもこれからがんばろうとされている方も多いかと思います。糖尿病の診療は日進月歩ですが、今年はどうのような展開があるのでしょうか。さて、このMANO a MANOは先月号をもって紙媒体での配布を終了し、今月号から電子ブックでの配信になります。今まで以上に皆さんのお役に立つ情報をお伝えできるようにがんばりますので、これからもMANO a MANOをよろしくお願ひ申し上げます。（広報委員長 西田 賢司）